

平成 28 年 12 月 7 日小方地域まちづくり対策特別委員会 議事録

10 時 58 分 開会

○細川委員長 おはようございます。若干のフライングではございますが、定足数に達しております。ただいまより小方地域まちづくり対策特別委員会を開会いたします。

開会に当たりまして、市長がお見えになっておりますので、御挨拶をお願いできればと思います。

市長。

○入山市長 小方地域まちづくり対策特別委員会、開催ありがとうございます。よろしくお願い申し上げます。

○細川委員長 ありがとうございます。

それでは、早速日程に入ってまいります。日程 1、地方創生加速化交付金申請事業についてを議題といたします。これに関しましては、執行部のほうより御説明をお願いいたします。

総務部長。

○政岡総務部長 それでは、説明をさせていただきます。小方地区におきます遊休地整備による子育て世代安心のまちづくり事業として整理をしております。地方創生加速化交付金を財源といたしまして、まちづくり基本構想策定、道路概略検討、駅立地検討、この大きく 3 つの事業から成ります、この本事業の概略につきましては 9 月の委員会において概要を説明をさせていただいたところでございます。各事業におきまして、契約が締結できた段階になっておりますので、各業務の進捗状況につきまして、それぞれ担当から説明をさせていただきます。

○細川委員長 企画係長。

○山田企画財政課課長補佐兼企画係長 それでは、資料として申請事業、表をつけております 1 枚物をお配りさせていただいております。

まず、1 番目の小方地区のまちづくり基本構想策定業務について御説明をさせていただきます。こちらにつきましては、9 月 7 日の日にプロポーザルの募集を公募したということで、そこまでを前回の委員会で御報告をさせていただいておろうかというふうに思っております。それ以後、4 社から提案の応募がございました。その後、庁内で 1 次選考、それから 2 次選考という形でプロポーザルによって選考いたしまして、ここに書いてありますとおりパシフィックコンサルタンツのほうへ業務を委託をしております。契約は 11 月 18 日からということになっておりまして、金額のほうが税込みで 926 万 6,400 円ということになっております。履行期間は平成 29 年 3 月 24 日までということにしております。

業務の内容につきましては、前回も概略、仕様書のほうで御説明をさせていただいたかというふうに思っておりますが、まず一旦、基礎分析をいたしまして、その上で遊休地のゾーニングをし、また子育て支援策等を含めて活用策等を御提案いただくとともに、民間活力をどのように導入していくかというあたりを合わせて提案をしていただいて、エリア全体の構想図というものをつくっていくという業務でございます。また、この後、御説明

をいたしますこの道路の概略検討と、それから駅の立地検討、そういったところとも整合を図りながら、最終的な図面の調整というところを図っていきたいというふうに思っております。

また、現在、コンサルのほうには昨年ですか、本委員会から御提出をしていただきました各会派の意見というものも、基礎分析のための資料ということで提供をさせていただいております。それとあわせて公園の陳情といったところも、合わせて提供させていただいているところです。

策定するに当たりまして、何らかの形で市民の方の意見も取り入れながらつくっていくという思いを持っております。そういう中で、今回、大変短い期間で策定をするということになってしまいましたので、そういったところでまずはちょっとワークショップという形で、市民の皆様からどういったお考えがあるか、どんなアイデアがあるかというようなところをお伺いをしたいというふうに考えております。具体的なところはちょっとこれから詰めていかなければいけませんけれども、今のところ、年が明けまして1月と2月ぐらいに、それぞれ1回ずつワークショップという形で開催をして、そのことにつきましては1月号の市広報で、市民の方、どなたでも御参加がいただけるように公募したいというふうに今考えているところです。

それから、コンサルさんのほうから御提案がありまして、小方港エリア、小方港を含めたエリアの集客の魅力であるとか、それから小方港をどういうふうに活用していくかというところも少し検討したいということで御提案がありまして、去る11月23日ですけれども、祝日の日に廿日市市さんの御協力もいただきまして、宮島口にあります廿日市の市営駐車場の来場者の方を対象に、聞き取りでアンケート調査を行っております。まだ集計結果のほうはいただいておりますけれども、その日、11時ぐらいから夕方ぐらいまで来られた方に聞き取りをして、100件弱のサンプルが集まっているということで、今、御報告を受けております。構想の中身につきましては、以前からも御要望いただいておりますので、あらかたのところ固まりつつある段階で、議会のほうにもお示しをして、また御意見を伺う機会というものは設けていきたいというふうに思っております。ワークショップを1月、2月ということで実施をいたしますので、それを踏まえてということになりますので、2月の中旬から下旬にかけてということになるかというふうに思いますが、その段階で御意見を、またいただきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いをいたします。

基本構想の策定業務の概要につきましては、以上で終わりたいと思います。

○細川委員長 計画整備係長。

○実本都市計画課計画整備係長 それでは、引き続きまして都市計画課のほうから、配付資料の2、3について説明させていただきます。

初めに、小方地区道路概略検討業務ですが、株式会社アース開発コンサルタントを受注者としまして、契約額税込みで289万4,400円で契約し、履行期間は平成28年10月7日から平成29年3月31日までとしております。

主な業務内容ですが、新駅周辺と晴海地区を接続する道路の概略検討及びその周辺の現

地測量を行います。

進捗状況を申し上げますと、現況調査を行った後、路線選定の作業を行っている状況でございます。また、11月末から測量作業を実施しておりまして、道路の検討案ができましたら、国道2号等に新たな交差点を設置することが可能であるか、関係する公安委員会や各道路管理者等との協議を行う予定としております。

次に、小方地区駅立地検討業務ですが、こちらJR西日本コンサルタンツ株式会社広島支店を受注者として、契約額税込みで583万2,000円で契約し、履行期間は平成28年10月11日から平成29年3月31日までとしております。

主な業務内容ですが、小方地区のまちづくりの中核施設としての新駅設置や、それに伴う駅前広場、線路横断道路等について検討を行うものです。

進捗状況を申し上げますと、現況調査、新駅の需要予測等の検討をしながら、新駅の設置計画や線路横断道路の比較検討案の作成を行っている状況です。今後は案ができた段階で、鉄道事業者と協議する予定です。

以上で説明を終わらせていただきます。

○細川委員長 ありがとうございます。

小方地区のまちづくり基本構想策定事業につきましては、議会に御報告いただける状況になったら随時御報告いただくということで、9月議会に引き続き、今回も当特別委員会での御報告をいただいているところです。基本的に報告と考えておりますが、この内容の中でもう少し確認してみたいところがあれば、質問をお受けいたします。質問ございませんか。

賀屋委員。

○賀屋委員 それでは、ちょっと二、三点お願いしたいと思います。まず、小方地区の駅立地検討業務の中での利用者等の需要予測というのがありますけども、これは1番の小方地区まちづくり基本構想ですよね、これとある程度リンクをしないとだろーと思うんですが、そのあたりの予測。何が来るかによって予測値も変わってくるんだろーと思うんですが、そのあたりはどのような進め方をされようとしているのかということと、それと新駅の設置位置、場所がある程度ここで確定すると思うんですけども、それに合わせて当然2番の道路の新駅周辺という接続の形態ができてくるんだと思うんで、そこも当然リンクをするということで考えていいのかなどなのか。それと、線路横断道路の概略検討とありますけど、これはボックス、今ありますけども、それを改めてもう1本、その隣になるのか、近くになるのかわかりませんが、検討しようということを、そのことを指しているというふうに理解したらいいんでしょうか。

以上、ちょっと3点ほど、お願いしたいと思います。

○細川委員長 都市計画課長。

○中司都市計画課長 まず、1点目の駅利用者の需要予測でございますけども、まだちゃんと基本構想のほうが出ていないんで、実際に何が計画されるかというのはわかりませんけども、今、プロポーザルのほうである程度案というのが示されとるんで、それをもとに検討していきたいなというふうに考えております。

2点目の道路と駅ですか、駅の計画とリンクしとるかということですが、今回検討するのは駅広場と国道2号、それで晴海地区を結ぶ、主となるであろう道路というのを検討しておりまして、その道路と駅広場というのは、当然に今ちゃんとひつつくという形になります。あとそれに接続する用地ですね、そこについては今後どういった方法で開発なり整備をされていくかというのがありますんで、主道路に接続される道路ですね、枝の道路については未利用地の計画をどのようにやっていくかという中で検討されるというふうに考えております。

あと、ボックスカルバートですけども、今のボックスカルバートを広げられるかどうかというのは、ちょっと難しいとこなんですけども、近接箇所へもう1カ所、ボックス等が設置できるかというのを、ちょっと検討するというふうに考えております。

以上です。

○細川委員長 賀屋委員。

○賀屋委員 わかりました。先ほどプロポーザルで提案された部分を利用者等需要予測の中に反映さすというようなお話だったと思うんですが、このプロポーザルで提案された中身というのがどのような中身なのかというのは、まだ我々には知らされてないんですけども、そのあたり、まだちょっと早いよねということであれば、また次期でもいいんですが、いずれにしてもどういうまちづくりをしていくのかということと、この利用者需要予測というのはリンクををすると思うんで、またしっかり情報提供をお願いしたいと思います。

以上です。

○細川委員長 他にございませんか。

末広委員。

○末広委員 おはようございます。私はまだ経験も少ないんで、少し基本的なことをお伺いしたいんですが、こういうふうに基本構想でプロポーザルで最終的に発注先は決まるんですが、その発注に際しての仕様書みたいなものがあって、その中に最終的にここに比較設計とか比較検討とかいう言葉が2番目、3番目にあるんですが、さまざまな可能性を検討されて、最終的に一通りのものが出てくるんだと思うんですが、道の位置とかですね。そういうときに、やはりそこに結論が収束していく段階には、さまざまな選択肢の中から、恐らくプロとしてさまざまな知識や御経験を生かしたものが織り込まれて基本構想ができ上がるんであろうと想像するんですが、そのときの判断基準の中に法的な制約とか、新たなステークホルダーが発生してしまう選択肢を外すとか、そういうようなことがあろうかと思うんですが、この基本構想を発表いただくときに、その判断の経過に必要な法的規制の一部ぐらい、第何条の何項の何番ですとかいうことまで要らないんですが、こういう制約があって、この選択肢に落ちつきましたという、制約条件のところを少し表現いただければ、我々、本当に素人なんで、プロができ上がったものだけ、ああそうかと、これしかできなかったんじゃないかとおさまるわけじゃないと思うんですよ。それは、一般市民の方はそう素朴に感じられると思います。せめてそういう大きな枠組みだけで結構ですので、法的制約のような判断基準を結論に添付いただくようなことがお願いできれば、もう仕様書を発行してしもうて発注しとるんだから、今さら無理よというのがあらんかもしれませ

ん。その辺はよくわからないんですが、判断に至った経過に伴った判断基準、特に大きな法制約、その辺を少し御提示いただくことを、今からでも間に合えばお願いしたいなということで、よろしくお願いいたします。

○細川委員長 要望と受けとめました、何かお考えがあればお願いします。

企画財政課長。

○三原企画財政課長 数点というか何件になるかわかりませんが、比較検討ということですので、何点か案が出てくるんだろうと考えております。その際に、こちらのほうがいい、こちらのほうがよくないというのは、やっぱりそれぞれ私たちもわかっていなければいけませんので、そのあたりというのは業者とよく話を決めていくことになるかと思っておりますので、また御提示するときには、そのあたりも一緒に御提示することはできると考えております。

○細川委員長 よろしいですか、末広委員。

他にございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○細川委員長 ないようでしたら、今後のスケジュールのことで委員長から少し1点ほどお願いというか確認したいんですけれども、先ほどの小方地区まちづくり基本構想のところ、今後、市民とのワークショップを1月から2月にかけて一、二回。その後、案ができたところで議会にもお示しいただいて、意見を申し上げるチャンスをいただけるということでしたが、先ほど、ワークショップは市民どなたでもということでしたんですけどね、そうはいっても議員がその中に入るというのは、なかなか敷居の高いものでございまして、例えば委員会でワークショップを開いていただくとか、そういったことは可能でしょうか。はい、係長。

○山田企画財政課課長補佐兼企画係長 そうですね、議会でワークショップをやられるということであれば、基本的にはコンサルの方を中心にワークショップを今やろうというふうに思ってますので、どういうやり方ができるかというのは、ちょっと御相談をしてみる必要はあるとは思っておりますけれど、委員の皆様の方でぜひということであれば、やる方向で調整をしたいというふうには思っております。

○細川委員長 ありがとうございます。コンサルとも相談の上、恐らく可能ではないかということですが、どんなでしょうか、ちょっと皆様に相談したいんですけれども。私もよりその前の特別委員会からずっと小方については、いろいろな意見を皆さんで知恵を出しながらまとめてはきておりますが、いよいよこれから構想づくりという段になって、できるだけ委員会の委員の皆様の、もっといろんなアイデアもさらに盛り込むことができればというふうに思うんですけれどね。ワークショップで、また皆さんが今までにない意見なんかも出てくれば、それが小方のまちづくり構想に少しでもプラスに働けばと思うんですけれどね。可能だということなので、委員会でワークショップをしてみませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○細川委員長 よろしいですか。では、あとやり方ですけれども、何なら特別委員会です、委員会の委員だけにこだわることなしに、毎回、傍聴にもたくさんの議員が来ていた

だいておりますが、希望者の方には参加していただいて、全員参加でも15人ですのでね、そんなに大勢でないので、幾つかのグループで可能じゃないかなと思いますので、委員外の皆さんにも、御希望があれば声をかけてみてもよろしいでしょうか。委員以外の皆さんも参加していただいて。特別委員以外の議員の皆さんでも、御希望があれば、一緒にワークショップに参加していただくという形で、より多くの知恵を反映していただくという方式をやってみたいと。よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○細川委員長 はい、ありがとうございます。それでは、最高でも15人だと思いますが、ワークショップをぜひやっていただけるようお願いいたします。

企画財政課長。

○三原企画財政課長 では、そのような形で調整に入りたいと思います。ただ一言申し上げておきたいことがございます。特別委員会での決定ということではございますが、ワークショップの場というのはアイデアを出す場ということでございます。議会の決定ということにはなりません。決してなりません。アイデアを出してもらって、考えをまとめる場ということになりますので、その辺だけは御承知おきください。よろしくお願いします。

○細川委員長 ということですので、皆様、よろしくお願いいたします。ありがとうございます。

それでは、日程1はこの程度にいたしまして、日程2に移ります。続きまして日程2、平成27年陳情第2号小方小学校移転跡地に公園設置陳情を議題といたします。

本件は、9月12日の審査から継続審査になります。先ほど跡地の現況については執行部から御説明をいただいておりますが、新たにつけ加えることがございましたらお願いいたします。

建設部長。

○坪浦建設部長 先ほど日程第1で報告させていただきましたように、現在、進行形で今から作業が始まるということでございますので、つけ加えることはございません。

○細川委員長 ありがとうございます。それでは、委員の皆様におかれまして、執行部に確認したいことがございましたらお願いいたします。確認したいことです。

賀屋委員、どうぞ。

○賀屋委員 この陳情は公園を設置してくれということで、ずっと継続になっておりますけれども、この小方まちづくりが進む中で、今、基本構想策定業務、その次は今度、方針がある程度出たら、今度は基本計画というふうに段階を進んでいくと思うんですけども、少なくとも2号線から山手側の小学校跡地について、どういう構想、計画が上がるかわかりませんが、その一団の大きな土地の開発ということになりますと、そこに対して公園緑地を1カ所も設けないでもいいというような都市計画上の縛りというのはないと思うんですが、その辺の確認をしてみたいと思うんですが。あの一団の小学校跡地を開発するとしたら、必ず最低でも1カ所、何%以上、3%ではないかと思うんですが、そういう規制があるという、公園の整備の仕方であるとか、位置であるとかいうのは、その構想によってまた変わってくるとは思いますけれども、少なくとも小学校跡地には公園を配備をし

ないといけませんというふうな縛りになるということでもいいかどうかということを確認したいと思います。

○細川委員長 都市計画課長。

○中司都市計画課長 今お話のありました、例えば開発行為ということになれば、通常であればその敷地の3%以上公園を設けなければいけないというのがありますので、そういった基準にのっとって整備がされるというふうに考えております。

○細川委員長 よろしかったですか。

他にございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○細川委員長 ないようですので、それでは本件の取り扱いについて委員の皆様の御意見を求めます。継続審査などの御意見がございましたら、この場で述べていただき、賛成反対の討論はその後に行えればと思います。

賀屋委員。

○賀屋委員 ただいま確認をさせていただきましたように、この小学校跡地というのは必ず法的に公園整備というのが課せられるということでございます。ただ、どこほどの規模、どういう公園かということについては、今発注の基本構想、あるいは今後、基本構想によって計画される施設の配置、そういったものが確定をしていかないと、公園の位置、規模というのが決まらないと思うんですが、いずれにしてもそういうことを決めようとする、今、段階でございますので、もうしばらくその状況を見守りながら、今回の陳情の判断については、引き続き継続ということが望ましいというふうに考えます。

以上です。

○細川委員長 ただいま継続審査の意見がございました。継続審査についての採決を行います。

本件を閉会中の継続審査とすることに賛成の委員の皆様の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○細川委員長 ありがとうございます。起立多数と認めます。よって、本件は閉会中の継続審査とすべきものと決しました。

それでは、続きまして日程3、先進地事例調査の研究の事後学習を議題といたします。

この件に関しましては、執行部の皆様は委員会内部での勉強会になりますのでよろしいかと思います。お疲れさまでした。

〔執行部退室〕

○細川委員長 それでは、日程3、先進地事例調査研究を議題といたします。

皆様には、このたびオガールの視察に関して、視点を9プラス1、その他も含めまして幾つか挙げさせていただいて、これに基づいて3点程度、勉強の結果の考察をまとめていただければお願いしてあります。視察に行かれなかった方にもお願いしておりますので、藤井委員、ありがとうございます。皆さんから提出していただいた分をホチキスで事務局にまとめていただいておりますので、お手元にご覧いただけますでしょうか。

きょうは、ちょっと量が多くなりますので、それぞれ皆さんから自分のまとめを発表し

ていただいて、特に皆さんから気づきがあれば、それにつけ加えていただいても結構ですが、その後、今後もう少し深めていきたい点について情報共有して、そのあたりで終わりたいかなと思っております。ということによろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○細川委員長 それでは、早速調査のまとめがありますので、それぞれ発表していったほうがよろしいんじゃないかと思いますので、発表させてもらいます。とじた順番でということで。副委員長からいきますか。副委員長が、ぜひ1番バッターで報告したいということです。

済みません、その前に、この表紙としていつものお決まりの日時、視察先、視察者、相手方、視察概要についてまとめてありますので、こちらのほうも御確認ください。オガールプロジェクト調査の視点についてというのも一覧表で書いてありますので、そこらと見比べながら聞いていただければと思います。

それでは、副委員長よりお願いします。

○和田委員 ほんまにごく簡単に説明させていただきます。オガールプロジェクトが成功した要因なんですが、駅前の周辺で何平方キロあったんか知りませんが、結構大きな広場に、今の駅前に宅地とか図書館とか、保育所、総合施設、フットボールセンターなどね、官民一体のプロジェクトで、コンパクトシティでその中で日常生活が送られるというまちに大変興味がありました。それが多分成功した理由だと思います。それで、今の太田のまちづくり、これからのまちづくりを進めていく中で、市民にアンケートを、今からどういう太田のまちにしてもらいたいかなというのを、アンケートをとったらどうかなと私なりに考えております。

先ほど、小方駅と太田駅にこれからのまちづくりをどうしたらいいかということでね、今のオガールを参考にしまして、大型総合施設、ビルの7階でも8階でもいいんですが、その中に飲食店とかコンビニとか、ビジネスホテル、子供の一時保育の預かり所などね、そういうのを一体したビルを建てたら、駅前周辺が大変にぎわうんじゃないかと思います。

以上、簡単ですが説明させていただきました。

○細川委員長 はい、ありがとうございます。

では、順番で。次、末広委員、お願いします。

○末広委員 私は官民というか公民連携の部分と市民参画ですね、9番にはなるんですが、要素としてはこの2つが大きなキーだと思って、そこだけを中心に表現させていただいております。視点番号でいえば多岐にわたるんですけども。というのが、オガールプロジェクトの御説明にもありましたように、これで、こちら駅裏側が終わったからオガールプロジェクトは終わりではありませんと。当初から旧市街、駅の向こう側ですね、ここも含めた一貫したプロジェクトですということを明言されて、このプロジェクトはスタートしているように御説明がありましたし、参考文献にも表現がありました。ということは、これからのほうが難しいんですね。地権者が多岐にわたります。今のゾーンは、全て町が持ってた資産ですから、ある意味じゃ多大な御苦労はあったにしても、進めやすかった。このプロジェクトはいよいよ難しいゾーンに入っていくという時期を迎えてらっしゃるんだな

と。だから、我々にとって参考になるのはその部分かなということで、公民連携はそういうことのなかですけども、ワークショップの開催回数や、自由な出入りだとか、町長が随分、壊れたテープレコーダーのようにリピートしてきましたとか、そういう要素がやっぱり大竹市にとっても必要かなと。確かに小方小学校、中学校エリアはある意味では同一の要素を持っています。市が持ってますから。でも、じゃあ裏はいいのということになると思いますね。だから、やっぱりゾーニングとしては、今回の基本構想もゾーニング、広い範囲のゾーニングで、今回の案が出てくれればいいかなとは思ってるんですが、そういうところを今までの結果を学びつつ、これからも参考にさせていただきつつ、今回の視察は大変中身の濃い視察であったということを感じ持たせていただきまして、終わりたいと思います。ありがとうございました。

○細川委員長 ありがとうございます。

では、今の末広委員のようにまとめて言っていただいても結構ですので。

賀屋委員、お願いします。

○賀屋委員 それでは、まずオガールプロジェクトが成功した要因とは何かという問いでしただけども、実際に今、末広委員さんのほうも話がありましたように、今からが大変な話で、今までの分が本当に、逆に言えば10年後、20年後、どういうふうな状況にあるのかということで、成功したかどうかというのはその段階で判断を本来はすべきじゃないかなと。ただ、今の段階では、いろんな方面から評価をされて、見学者も我々が行ったときのように、満杯になるほど見学者がおられてね、そういった意味では大成功なのかなと。いわゆるP P Pという新しい手法に取り組んで、それが成功しているという、新しい事業で成功したということでの評価ではないかというふうに思いました。

その要因としては、やはりプロジェクトを仕掛けた人というのが、まず岡崎さんという方が提言をして、その手法を理解をして、当時の町長ですね、藤原さんという町長が判断、英断したということが一番のこの事業に取り組むことができた要因ではないかというふうに思いますし、先ほど言いましたP P Pという公民連携ということが、基本計画をつくって、住民や議会、あるいは事業者間でそのことをよく理解されて評価されたと。そのスタートするまでのひたむきな努力という部分が、非常に成功した要因ではないかというふうに思います。

次に、大竹に置きかえたとき何か生かせる部分はというのは、やはりP P Pという公民連携という手法を大竹も、そのまま相手がいるわけですから、当てはまるかどうかわかりませんが、検討はしてみるということは必要なんではないかと。それとあわせて、やはり住民の説明会、座談会、意見交換、ワークショップ、フォーラム等、市民全体で情報共有をして、同じ方向性を見出すということが、やはり一番成功するための秘訣でございますので、そういうところはしっかり大竹に置きかえたときに参考になるんだろうというふうに感じました。

次に、まちづくりを進めていく上で大切なことというのは、やはり本当30年、50年の先を見据えた基本構想、基本計画、今つくられてますけども、そういうものをしっかり市民参画で進めていくと。その中でも隣の市町にあるようなものを、同じものをつくっても魅

力はないんで、そういう隣にない、周辺にないものをいかにビジョンとして取り組んでいくか、そのことによって周辺とは違う魅力のあるまちづくり、まちになっていくんだろうということが大切なんだろうと思います。

次の、議会が果たす役割、必要なことというのは、やはりまちづくりの方向性というのは議会報告会とか住民説明等で発信をして、多くの市民から意見集約をしていくと。それで、基本構想や基本計画の策定の段階で、十分な情報共有をして、意見交換を行って、議会内でまず議論を尽くして意思統一をしていく。議会と同じ方向をやはり向いていかないと、なかなかいい計画、推進はできないだろうというふうに感じます。そういう意味で議会が果たす役割というのは、しっかり共有をしていくということだろうと思います。

次の、公民連携の可能性についてですけども、大竹市もPPP手法を十分に調査研究をして、民間開発のノウハウや資金面、経営面での計画段階から参画して、市民の知恵と経験を生かすという、その可能性はあるんだろうというふうに考えますので、検討する価値は十分にあるというふうに思います。

次に、集客装置となるような素材は何かということで、新しいエリアには市民のニーズを集約した施設をコンパクトに配置させて、生活の利便性向上を目指す。例えば、小方駅前に隣接する大型複合施設に官民が入居して、これは賃貸マンションであるとか、分譲マンションとかホテル、医療機関、商業施設、金融機関、保育所、高齢者施設、保健施設、またこの市役所等が、その大型複合施設の中に、ビルの中に入って、ワンストップで、そこへ行けばほとんどのことが用が済むと、用事が済ませるというような、そういう施設が駅前にできれば、駅を中心とした人の流れというのがそこへ集中してくるんだろうと。それだけ逆に言えば、この周辺にないコンパクトシティとしての魅力のあるまちづくりができるんじゃないかなと。そういう意味で、集客装置としてはいろんなものが1カ所で用を足せるというものを考えたらどうかなというふうに思います。

次の、効果的な市民参画とはどのような形かと。やはりまず小方まちづくりシンポジウムというのを開催をして、方向性や手法、手順を紹介した市民の関心と意欲を引き出す。次に、各種別のワークショップや意見交換会などを開催して意見集約を行い、市民参画であるということを前提に進めていくということだろうと思います。そのことによって市民も同じ方向を、市民の意見も入れるわけですから、当然、同じ方向を向いてくるんだらうと。事業の進め方も見やすくなるということじゃないかというふうに思います。

以上、済みません、ちょっと長くなりました。

○細川委員長 ありがとうございます。

それでは、次、藤井委員、お願いいたします。

○藤井委員 今回、私、事情がございまして不参加でした。資料を読ませていただいたところの感想でございます。人口は大竹と若干多い3万4,000人のまちで、年間80万人の利用があるということを読んだときには、非常に、だからどうこうではありませんけれども驚きました。

このプロジェクトが成功した要因ですけれども、専門家による綿密な公民連携基本計画の作成と、行政の決断、民間企業の参加、そして何よりも市民の理解があったと考えてお

ります。根回しや話し合いなど、相当、水面下では御苦労なされたと思いますが、利用したい施設が交通拠点である駅前に集中しているために利便性が高く、人が一極に集中することが評価できると考えます。計画の建物等が完成し、多くの人が利用されているようですが、投資資金に対する返済、これは資金の問題ですけれども、これから長期にわたり始まることだろうと思います。行政が絡んでいるので、金融機関の信頼は厚いが、商売は個人であろうから、10年、20年たつと店が古くなりますんで、またリニューアル等、資金等もかかってまいりますので、もう少し長い目で観測をする必要があると考えております。

まちづくりを進めていく中で大切なこと。その道の専門家ですね、しっかりした専門家による立案と計画が必要であろうかと思えます。ゆとりのある資金繰りとしっかりした返済計画が必要であります。市民にしっかり説明し、理解を得ることが必須条件であろうかと思えます。つけ加えますと、先ほどの小方のまちづくりのことは、少しスケールとしては小さいかもしれませんが、やはりしっかりしたこういったことが必要であろうというふうに私は考えております。

3番目に参ります。大竹市における公民連携の可能性について。まず、まちづくりの専門家に入ってもらい、問題点をあぶり出し、行政の取り組むこと、議会の取り組むこと、民間の取り組み、それぞれをきっちりとすみ分けを行う必要があろうかと思えます。大竹市では、もう既に公共施設があちこちに、何百メートルといいいますか、数キロ離れたものもありますけれども、離れた状況でまちづくりが行われておりまして、このオガールのように駅前に一極集中というのはなかなか難しいのではないかなというふうに考えております。ぜひ小方のまちづくりに生かしていただきたいというふうに考えます。

以上です。

○細川委員長 ありがとうございます。

次、日域委員、お願いします。

○日域委員 私、この書式はよく知らずに違う書式で出したの、これ早川さんがこっち側に、部分的に移植してくださったものです。だから、若干違う気もするんですけどもね。まず1番に、オガールの発想のスタートとして、半径30キロの円だったような気がするんですが、それをかぱっとかぶせたときに60万人の人口になるといったかな、それが要するに盛岡と花巻が含まれるということですけども、そういう場所がああたりにあそこしかない。そういう着眼点はおもしろいなと思いました。すばらしいことだと思います。ただ、やっтерことが補助金に頼らない、もちろん交付金を受けて施設を買ったりしますから、全くゼロじゃないですけども、循環型経営って、とりあえずはすごく聞こえがいいんですけども、大きな意味で循環すりゃいいんであって、自分とこだけで循環しても厳しいような気がします。ここに書きましたけど、私はね、循環型経営なんていうのは自転車操業と同じ言葉のように聞こえます。画竜点睛を欠くと言いますけど、結局、あのまちの目玉ですよ。目玉が何かわからない、そんな気がしました。

これもここに書いてますけども、皆さん御存じかもしれませんが、大芝に県の職員研修センターがあったんですね、昔。あそこのいろんな研修データを見たことがあるんですよ。その中に大竹市が何で人口減るんだというのを10年ぐらい前にやってます。寄ってたかつ

て結論が何もないんですけども、2号線があつて、インターがあつて、あれがあつて、工場があつて、全てそろっているのに何で大竹はだめなんっていう課題をやってもだめだったんですね。それを思い出してしまいました。なかなかね、そういう計算どおりにいかないということがありますね。

あのまちのことをいろいろ調べてみたら、まず1番に議会のことを言います。議会はね、最初反対してます。例えば、こっちのまちをよくしたら、既存のまちはどうなるんかと。さっき、末広委員がおっしゃったことにつながるんですけども、既存のまちはどうなるんだっていう意見がいっぱい出てます。もちろんそれに負けずにですよ、町長が推進したんですから、それはそれで結構なんですけども。もともとね、あのまち調べてみたら、北上川があるわけですね。北上川があつて、北上川の水運の拠点としてあのまちがもともとできたんじゃないか、日詰でしたよね、まちがね。それで、日詰が水運のまちとしてできた。その後に東北本線が走ったんですけど、あんなもん邪魔だというんで遠くを走らせたわけですね、田んぼの中をですね。それが今回、駅をつくってあっち側にもまちをつくらうというのが、今回のプロジェクトなんですけども。あそこには2つ駅があつてね、紫波中央駅が3つ目の駅だという、J R的に言えばそうです。でも、あその中心部は郡山駅っていうんです。タクシーの運転手が言うんですよ、郡山駅ってあるんよって。行ったら、今、バス停でした。でも、その周りには地銀の支店がずらずらあつて、あのとき、市街地というのをね、死体ですよ、死骸になぞらえて笑いをとってましたけど、あの市街地というのが旧来のまちなんです。それで、あそこに一極集中をさせてしまうと、既存のまちが死んでしまうかもしれない。だから、今からあっちが大変なんだという言い方はもちろんありますけども、ひょっとしたらオガールプロジェクトが既存のあのまちを、日詰のまちにとどめを刺したかもしれない。そういうこともあるわけですよ。だから、単純によかった、よかったじゃなくて、これからが本当の胸突き八丁で見ものだと思います。

大竹はもちろん学ぶことはたくさんありますよ。あのまちが成功しようが、失敗しようが、それは大竹と関係ない話ですから、大竹市としては、あのまちのやったことをですよ、ちゃんと調べて参考にする、できることはしっかりしたらいいと思います。やっぱり補助金とかは極力使わないと、我々、税金払っているわけですよ。法人税も所得税も国に払ってます。その一部が交付金とかでおいてくるわけですから、それをお金があるから何でもやれっていうのはよくない。それはよくないですけども、でも、いざやるときに国には税金はろとるけど、わしらは補助金は要らんねと言うたんじゃ立ち行きませんから、そこは小泉進次郎さんが、補助金頼みのようなことはやめましょうねという意味で、彼が象徴的なあれとしてあそこに行ったんでしょけども、一地方自治体の立場で言えばですよ、使える補助金はちゃんと使って、そこに民間の資金も上手に使ってやっていかないと、私に言わせると、あの安普請じゃ先は短いという気がしました、正直言ひましてね。

以上です。

○細川委員長   ありがとうございます。

では、田中委員、お願いします。

○田中委員   それでは、簡単にまとめさせてもらいましたが、まずびっくりしたのは、おり

たとこの駅が無人駅だったということですね、非常にびっくりいたしました。駅から真正面に見える、非常に近いところで、見た感じはそんなに建物も立派なものじゃないし、ただゆったりとしたような感じではありました。きょうの午前中の委員会でも言いましたが、やっぱり何かこういう事業の成功の裏には、必ずキーパーソンがいらっしゃるということを強く感じました。先ほど、賀屋委員のほうも言われましたし、それから和田さんも言いましたが、やっぱり前町長の熱い思いと、それから地元出身のPPPを学習された、勉強されたその方ですね。やっぱりいらっしゃるということで、専門的な知識と情熱を持った人が周りを動かしたということであろうと思います。これはどこでも同じことだと思います。

それで、まちづくりを進めていく中で大切なことということなんですが、これも先ほど、今、日域委員も言いましたが、やっぱり町民との対話を大切にすると。聞いた話では1カ月半ぐらいの間に100回くらい同じことをずっと説明して歩いたというような話も聞きました。その中でPPPという、あんまり聞きなれない言葉を聞いた人たちが、今までの行政の説明会なんかには、もう七、八人ぐらいがええとこなんじゃけど250人が集まったと。賛成、反対、不安、期待というものが入りまじっての参加であったと思うんですが、その方たちが後々、プロジェクトの広報マンとなってくれたということと、それからあといろんなアイデアを出してくれたという、そこに結びついたということだそうです。

それから、これが大竹において、この集客装置ということで書いてあるんですが、私はこのオガールの中にも、私ども困ったんですけど、やはり宿泊するところがあるということが、やっぱりまちが発展するかどうかだと私は思います。大竹には晴海公園もありますし、奥のほうには県立自然公園もありますし、とにかく一晩でも二晩でも大竹に泊まってもらって、大竹を知ってもらうという、そういうものが必要じゃないかと思います。交通のアクセスは、この近隣ではないすばらしい大竹の、私は財産だと思いますので、それを生かしていけるような、そういうまちづくりをぜひ進めていきたいなというふうに、そういうことを感じました。

簡単ですが、以上です。

○細川委員長   ありがとうございます。

それでは、ちょっと最後になりましたが、私のまとめを発表させていただきます。すごく簡単にいろいろ書いちゃったんですけども、私自身が一番思ったのが、オガールプロジェクトの成功した要因というのが、ぶれないことというふうに書かせていただいたんですけども、ほかとも集客装置は何かということも関連するんですけども、商業中心というよりはライフスタイル重視というか、このまちでどういう住まい方をしたいか。そこを貫いたのかなというね、そういう気がいたしました。それと、もう一つは、先ほどどなたかとも言われたと思いますが、オガールというか駅前、紫波の駅前だけではなくて、紫波町全体のこれが活性化の機関車となっていくんだといった位置づけでまちづくりをしていたということが、やっぱり大きい要因じゃないかなと思いました。

さらに、絵を大変魅力的な皆さんと共有できるような絵を描くことによって、市民の皆さんの意見もたくさん引き出すことができてきたというのが、成功した要因かと思いまし

た。

あとはつらつらあるんですけど、あとちょっと議会が果たす役割について、もう少し学んでいきたいと思ったんですけども、ほとんどわからなかったと、すごい否定的な書き方をしちったんですけども。実はこれ、別の目から見ると、公民連携基本計画を議会議決したのが、そこからすごく進みましたというような言い方をされてたんですけども、議会の役割として、こういった大きなまちづくりに非常にこれからのまちづくりに大切な基本計画を、議決案件として条例まで変更してやりましたということだったんですけども、これによってまちづくりを議会も本気で進めていくというね、意思表示というふうになったというので、その後が進んだんじゃないかというのを、すごく受けとめてまいりました。大体、以上でございます。

担当のほうから山田係長が行かれてますので、何かありましたらお願いします。

○山田企画財政課課長補佐兼企画係長 では、ちょっと鐘も鳴ってしまいましたので、簡単に感想ということで述べさせていただきますと思います。

まず、今回、私は御同行させていただくことで行きまして、本当に感謝をしております。いろんな雑誌なんかにも出て、名前は承知してましたけども、一体どういう仕組みで、どううまくいってるんだというところを、なかなか理解ができてなかったですけども、今回機会いただいて、勉強も少しさせていただく中でわかり、実際にじかに見させていただくことができました。このタイミングでできたということを、まず感謝申し上げたいというふうに思っております。

1つ、先ほどちょっと委員長もおっしゃられましたけども、当日のお話ではありませんでしたけど、人々の暮らしを提案をしていくというのが我々の仕事なんだというようなのを岡崎さんが言っておられたのが、書籍の中にあったかというふうに思います。自分自身も、この小方のまちを今からやっていくのに、実際にじゃあどうやっていくんだというのは、すごく試行錯誤のところがあるんですけど、自分自身もどこかしら、何をつくったらいいんだというような考え方に少し陥っていたようなところがありました。そういう中で、暮らしを提案していくんだ、どんな暮らしをしたいのかというのを描いてもらって、一緒に考えていきましょうというようにところを読んだときに、ここに1つ大きなヒントがあるんじゃないかなというふうに感じました。物に着目をする、どうしても最後はAかBかというような話になっていきがちなんだというふうに思いますが、どんな暮らしがしたいかというために、それは多分、十人十色なんだと思いますけど、そのために何をつくってどうやっていくかというのを考えていくと、皆さんが少しずつ満足がいくようなものが、何かしらの妥協点というか、落としどころみたいなのが見つけていけるのかなというようにところを感じました。本当に今回、同行させていただきましてありがとうございました。

○細川委員長 ありがとうございます。

それでは、全員が発表が終わったところであれなんですけど、次のことを御相談したいんですけども、このたびの視察は、行って、これがよかったねで終わるだけではなくて、今後のまちづくりに主体的にもう少し提案できるような学びをしていきたいということで

したので、事後学習が非常に重要になってくるかなと思っておりまして、皆さん全員にお願いいたしました。きょうはちょっとこれ以上深めるのは時間的に難しいので、次に再度、もうちょっと自由に意見が言えるような形にして、多分、きょうの話を聞いて、皆さんまた違う考えも出てきたんじゃないかと思しますので、そういう形でやってみたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○細川委員長 それで、今回のこの視点を9つほど出させていただいて、10でその他があるんですけど、一番大事なのは、この成功した要因と、どこをどう生かしていくのかというあたりが皆さんと一致していけば、あとのほうは自動的に出てくることも多いように思っております。全部を一遍にやるのは難しいので、とりあえず1番と2番あたりを、ゆとりがあれば3番ぐらいまでいければと思いますが、この辺で意見交換を自由な雰囲気で行わせるような意見交換の場を設けて、何かもし1つの形が見えてくればというようなやり方をしてみたいと思います。

きょうの皆さん、これ持ち帰られて、自分の書かれたのと、あとほかの方たちが、委員の皆さんが書かれたことなども読みながら、1、2、3あたりで、少しもうちょっと膨らませてきていただければなと思っております。それをもとに、次の特別委員会、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○細川委員長 ちょっと日程だけ御相談したいんですけどね、ちょっと12月はもう無理かと思しますので、1月、年明けて早目にいかにかと思うんですが。ちょっと委員会は違うんですけど、きのう生活環境委員研究会のほうで小方との意見交換の前に、ちょっと少し情報交換も必要であろうかということで、実は小方のほうの意見交換は、できたら1月18日か19日あたりの夜したいなという方向で、今、準備を進めておりますので、その前の週あたりに、この研究会と、あと小方地域まちづくり対策特別委員会を入れたいなと思っております。新年明けて早々になりますが、例えば1月12日あたりは皆様。木曜日です。よろしいですか。では、小方地域まちづくり対策特別委員会、1月12日の10時から入れたいと思いますので、それまでに少し、初夢でいろいろと考えてきていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、以上で本日の小方地域まちづくり対策特別委員会を閉会いたします。お疲れさまでした。

12 : 06 閉会